
むかし共に生きていた猫との思い出を

y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

むかし共に生きていた猫との想い出を

【Nコード】

N5111M

【作者名】

y

【あらすじ】

子供の頃メスの黒猫を拾ってきました。とても可愛くて大切でした。もう死んでしまいましたが、彼女との思い出は強烈で忘れ去ることはできません。その彼女との日々を思い出して、ただ思いつくまま打ち込みます。4コマ漫画を添付します。

なつのゆめ（前書き）

小説のような続き物ではなく、エッセイっぽい短文です。

なつのゆめ

> i 9 0 5 3 — 3 2 2 <

仕事に行こうと思って、電車に乗りました

どうせ終点までの長い道のりなので、眠っても大丈夫です
窓の外はどんどん牧歌的な風景になっていきます

夏らしい青空で。緑の畑やら田んぼやら草原やら

ぼうつとしながら

着いたようです

あれ？

降りると何故か一面緑の草原で

あれ？と振り向いてみると改札は無く、同じような緑が広がるのみ
何故かぼーっと歩いて、さくさく草を踏む音。日本の夏らしい蒸し
暑さはなく、さらっとした風と草いきれ

とおーくに小さな屋根みたいのが見えて、何故かあれが会社なのか
と思って進んでいきました

あれ？

家じゃん

自分が住んでた家です。子供の頃住んでた、ボロ平屋建て

何故かそこに入りまして、ああ、玄関の靴箱の上の変な刺繍の怪し
い絵もそのままで

バリバリ毛羽立った玄関マットもそのままで

短い廊下を進んで居間に入ったら、正面のソファの上、サーモンベ
ージユのクッションの上に
あの猫がいました

「ただいまー」

何故かそう言つて、いつものように頭にそつと手を置いて、ごはん
の用意をしました

なぜでしょうか、居間とつながってる台所はとても高く、手を少
し伸ばして水道の蛇口をひねって

猫の器をゆすいで、猫缶を開けて、そこに入れて

あー肩が痛いです。高いから。

お歳暮で頂いた朱色の缶から出したかつおぶしパックを振りかけて
さあ、どうぞ

クッションから音も無く降りてきて、本当に軽く、トン、とも聞こ
えないほど身軽な女

ととと、と寄ってきて、はぐはぐはぐ

小さな額、少し髭？長い毛が揺れてて、おいしそうに食べてるのを
見るのが大好きでした

うれしくて、またそつとそーつと触れて。ピクン、と見上げる仕草、
でもごはんが先なので

仕草だけではぐはぐはぐを再開。

ごはんが終わつたらお水。ぴちやぴちやぴちや。静かですよ。上品
な女でしたので。

ちつともこぼさないで。

ふう、みたいなかわいたためいき。またクッションに戻っていく
何も無かったようにぼす、と座つて。でも目は閉じないでこつちを
見てます

うれしくて

静かです。

こつち見てます

「また、お世話させてくれるんですか？」
何故かそんなことをつぶやきました

はやくもどれ

そんなかんじで。

もどりたくないんです。ここにいたいです。だめですか

だめ

そんな瞳でした

トイレ、外に干してたから入れないと

それはいいから。もうそれはいららないからと言われて
おまえはもどれと。もどれ

ここにいますから、と

39度の熱に浮かされて見た、へんな夢でした
かなりうそくさいですが、見ました

あれは樂園かな？平井堅さんの歌みたいな

夢なので、所々おかしいです。不条理というかご都合で

というか、夢って一秒ごとに忘れていきませんか

なんで、この二日アクエリアスと酒とおかゆでぐったりしてしまっているの

忘れないうちに、メガネかけると頭痛が酷いので使い捨てコンタクトを入れて何故かPC立ち上げて書いてます。バカか。思い込みとうさんくささとぼうつとした変な感じで。左目はもともとスポーツ上の事故で視力が出ないので、コンタクトも微妙ですが、右目だけで打ち込んでます。だからバカか。

へんな夢ですが、非常に幸せな夢でした

あそこにいけば、あの女がいるのでしょうか

つかあそこどこだよ

何行きの電車に乗れば行けるんだよ

教えて

もういくからって

どこにいくんだよ

置いていくなよ

連れてけよ

お世話させろよ

頼むから

一緒にいてくれ

お前だけなんだよ私には

尊いものはみんな貴女の中にある。私のためのものはすべてすべてに失敗した（後悔は全くしていませんが今は）私にとってどんなに想ってもすりきれません
どうか

つれていつてほしいんです

なんどくりかえしても、このおもいはぜったいにきえませんか

どうか

このてをとってほしいんです

どうか

せめてひとめ

どうか

(「GN」RINZ)

> i 9 0 5 4 | 3 2 2 <

なつのゆめ（後書き）

読んで下さってありがとうございました。

4コマ漫画はこちらです

<http://books.vipdoor.org/comic/ww2948>

<http://books.vipdoor.org/comic/ww2942>

あなたのいないまに（前書き）

ゴールデンボンバーさんの「君のいない間に」を聴いて何となく打ち込んだ文章です。文字は部分部分で変えています。

あなたのいないまに

> i 9 1 0 5 — 3 2 2 <

貴女がいない

貴女がいないまにいろんなことがあったよ
家も買って仕事も変えて夢をあきらめて友人も変わって左目の視力
は出なくなつて

貴女がみたならなんていうだろ
また見限られちゃうかもしれないね

ただ目が覚める毎日で、疲れて帰って酒飲むだけで
かんがえてしまいます。傍に貴女がいたならと
リビングのソファに貴女が眠っていたらいいなと
もう戻れないのに

貴女がいないんです

漫画にしても絵にしてもネームにして書いてみても
伝わりません

もういないんですねー・・・ときませんね
どこにいくのでしょうか。貴女への想いは

そういえば身内が本格的にイカしたのは、
貴女がいなくなってしまうてからだったかもしれせん

日々薄れていく貴女が悔しくて、写真を見てもどんな状況だったか
想い出せなくて
忘却ってこわいです

仕事で、生活で、色々あるとき、貴女がいたらって
逃げでしょうか

貴女とまた会えるなら、もう本気で何もいらないかもしれません

簡単に言えることじゃないと、そんな軽く「貴女の他は何もいらな
い」なんて言うべきじゃないのですが
年齢や、ある種の諦観や、仕事の閉塞感や
体調不良などもあるのでしょう

少しヤな感じですが、生活に余裕が出来たことも遠因かもしれませんが
ある程度は残せるほどの金銭や固定資産を手に入れて
身内関係も少しは落ち着いて

「もう、いいかな」とか

「もう、充分かな」とか

「もう、休んでもいいのかな」とか

思ってしまったている自分は本当に情けないヤツですね

消えない世界へ、二人で行きたいです

貴女が居たかつての世界は今どこにあるのでしょうか？

夢で、瞬間のぼんやりで、絵で、探しているつもりなのですが

いまはもう

貴女がいらないまにいろんなことがありました

いつかまた、会えるといいなと

そう遠くはないと思いますが

会えたらいいなあ

あなたのいないまに（後書き）

読んで下さってありがとうございました。

4コマ漫画はこちらです

<http://books.vipdoor.org/comic/ww2948>

<http://books.vipdoor.org/comic/ww2942>

かたいねこ（前書き）

「パーフェクト・ペット」 <http://www.unicom-japan.co.jp/wwwnupetzzz.html>

かたいねこ

> i 9 1 6 2 — 3 2 2 <

「パーフェクト・ペット」
完璧なペット
決して「死なない」命

買い物に出かけて、本屋さんに寄ったら何故か精巧な猫の人形が置いてある？（本物かと思った）
何だかわいいな、ってそつと触ったら

おなかが上下していて、本当に寝ているように！

「こ、これなんですか？」
「ウチで売っているオモチャです」
「・・・ください」

バカだ・・・私は本気で・・・
隣で寝ています。今にも瞳が開きそうなほど本物のようです。あの猫のように

でも触ると硬いです
おなかを触ったら凄く怒ったのに、無反応です（だから当たり前だ・
・）

静かに命が消えていったあの猫が少しずつ硬くなっていった感触と

同じような、あの硬さ

余計にかなしいわ……

でも、もう命を預かることは私には不可能なので

あの絶望感に耐えられないと思いますので

だからこそ、もう命は預からないと誓ったのですから

この本物のような硬いお人形を大切に部屋に置いておきましょう

……硬いな

かたいねこ（後書き）

読んで下さってありがとうございました

4コマ漫画はこちらです

<http://books.vipdoor.org/comic/ww2948>

<http://books.vipdoor.org/comic/ww2942>

いいおんな

> i 9 3 3 8 — 3 2 2 <

「イイ女」

つてのは、私にとってはどういう女性を言うのかなとか意味も無く何の役にも立ちませんが何となく考えました。概念的な「イイ女」像なので、現実の女性とは全く違う点を、何卒ご了承下さい。

バツ一のヘタレオタクがまたぼざいてるよって鼻で笑ってあげて下さい

大好きな漫画キャラだったら

講談社「お天気お姉さん」安達哲先生の仲代桂子さん

<http://gio.gio.gio.bake-neko.net/otenkioneesann.html>（感想）

朝日パノラマ社「富江」伊藤潤二先生

<http://gio.gio.gio.bake-neko.net/tomie.html>（感想）

ゲームだったら任天堂「ファイアーエムブレム」紋章の謎」のミネルバ王女

<http://gio.gio.gio.bake-neko.net/fe.html>（感想）

歌だったら「やっぱり彼女は凄かった」柳ジョージさんの「彼女」。

つてか先日PC開いたらグーグルトップのニュースピックに、映画「ゼブラマン」の女性悪役の女優さんのインタビューがあつたんです。で、「私は悪女です」ってトピックでドえむの私は迷わず読んでしまいました（・・・）

「悪女」とは？

勿論「悪女」役だから、そういうインタビューだったんだろうなあって思うんです。ふむふむ・・・「私はいやなことはいつでもハッキリいやって言うんです。だから悪女なんです」（要約なので間違ってたらすみません）って。んー・・・？女性から見た「悪女」っていうのはそういうものなのかな・・・？若い女性特有の風潮なのでしょうか？何となくこのトシで色々な女性を拝見しているので、そのインタビューを拝見して思うのは、例えば男性から「好きです」って言われたとして、その男性を好んでいなくても彼を傷つけないように優しく意志を伝えるのが「優しい、一般的に女性らしい女性」っていうニュアンスを感じたんです。間違ってたらごめんなさい（一回目）

そうですね。異性関係だけでなく、「一般的に求められる女性像」（「世間様が望む女精一杯今までやってきたんや」 西原理恵子先生の「パーマネントのぼら」の中のセリフ）というニュアンスを一種女性自身は「媚びる」と考えられ、それから逸脱する行為や心理を、世間一般像でない女性＝悪女、というニュアンスでインタビューに答えられているのかな、と何となく感じただけなので、間違っていたら本当にすみません（二回目）

で。私の中の「悪女」というのは、異性的な関係に於いて、「本当に旨く騙せる」方だと思っんですね。女性らしく、騙す。子供だからかわいくて何も分らないの。ロリコン的なものではなく。「お天気お姉さん」のけいこさんのな、「騙し」。ミネルバ女王も強いだけの設定でなく、女性として弱い部分もありました。完璧なキャラじゃなかった絶体絶命に陥っても裏切って悪役になっていた兄が最後助けに来た、来させた（裏読みなので、公式なストーリーにこんなありません）＝騙し続けた。自

分の目的を達成する為に、一本筋に沿って何の迷いもなく（でも葛藤描写が無いと魅力は半減するのですが）騙し続けた。男性を、世間一般を、周囲の状況を。「騙す」。「悪女」っていうのはそのまま「イイ女」に直結するんです。クレオパトラ様、楊貴妃様、「旨く騙した」、精一杯。

「女性を武器にして媚びる」女性はキライ、「男に媚びない女がカッコイイ」という風潮には勿論納得します。勿論かつこいいです。しかしソレは「悪女」では無いと思います。「カッコイイ女性」です。

現実にその女性と形をつけるというのはまた別のお話だと思います。キャバの若い美女に魅力を感じても、一般的に浮気止まりです普通の男性は。ご結婚されているならば奥様との生活を捨てれる訳が無い。それを捨てさせようと、そこまでのめりこませるのは反対の意味の「悪女」。引き際を、止めどころを知らない「経験が浅いだけの美女」であると思うのです。夜のお客様バイトを長く続けた私は。これは男女両方の社交さんに共通します。ヘタすりや刺される、人間の心理を一種利用してお金を上手に頂くお仕事です。本当のナンバーワンさんはとても上手で、浅く、長く、無理させずに。そしてご自分もまた無理をせずにじょーじょーうずに通わせていらしたんです。基本的に聞き上手、無理がない、決して若いだけじゃない、仕事上やることはきっちりやって、本当に相手を幸せに「騙し続け」ていらしたように感じたんです

「ルパン三世」のフジコさんは「悪女」の典型で、「悪女に騙されたいキャラクタ」男性アンケート一位。世の中にはたくさん良質なアニメがあつて、魅力的な美少女・美女がいくらでもいるのに、何故昔のアニメの女性キャラクタが今でも一位なのか。それは「騙し続けた」所でしょう。プライド持って、自分に疑問を持たず、スツ

キリしてるんです。あれだけ自由奔放にお色気と裏切りを繰り返していても。嫌味が無かった。

昔スマップスマップのコントで、時代劇で、草薙さんが武士役で、母親の手紙を読んでいるというシーンがあつて（すっげえええええうる覚えですみません）、フジコさんの声の声優さんが母親の手紙（の声）をあてていて、木村拓也さんが「草薙殿！貴殿の母君は味方をすぐに裏切るか？宝石とかが好きか？」って翻弄されていて、「母はダイヤが欲しいわ」って色っぽく言われたら、木村さんは「ダイヤというものは何処に売っておるのだ？」って照れているんですね。つまり、まあ・・・徹底的に騙される、その騙されるのが嫌じゃないんです。振り回されるのに幸福を感じる。男性の方向となく分かつてください。あの声でおねだりされたら・・・聞いちゃうでしょ・・・

話ずれてますが

女性の方不快に思われたら本当に申し訳ありません。

私にとって「イイ女」という概念は、やはり性的な意味合いを持つものなんです。つまり「この女性になら騙されても構わない」「とんでもなく旨く異性を騙してくれる」という概念になるんです。これは男性でも同じです。「とんでもなく女性を旨く騙す」。容姿や外見上の美しさもまた「騙す」ひとつの武器で、それを保ち続けている努力もまた非常に美しいと感じるんですね。バトルものでも、女戦士でも、男勝りな女性でも、「イイ女」というカテゴリでは、異性を感じさせない女性は「イイ女」とは感じず、「かっこいい女性キャラだなあ」という感じですよ（それはそれで凄く好きです）。そして「イイ女」はもれなく「強さ」を持った女性です。肉体的な力の強さだけじゃなく。

なので、大好きな栗山千明さんは、私にとって「イイ女」では全く

ありません。女性らしい部分は殆ど感じません。理想の、永久冷凍した、永遠の美少女。冷たい、「女性らしい肉の匂い」の全くしない、植物的な「少女」なんです。「少女」に性的な部分を感じるのは成人ではありません（イタイことばかり言ってるので、そっとしておいてあげてください。かわいそうな子なんです・・・あほう・・）

私の理想の女性像がかなり入っているこのメス猫

「悪女」の典型

> i 9 3 3 7 — 3 2 2 <

彼女は勿論フィクションですし、まさか猫相手に本気で女性を感じてたわけじゃないです（当たり前だ）。「媚びない女性が好き」というのはひとつのカテゴリなのですが、そういう一貫したものでなくて、「媚」もまた「緊張感の持続」（小林よしのり先生）であって、それが自らの目的を達成するための「手段」として「上手に騙して」くれるならば全然構いません、というよりも騙してくださいお願いします

ナニ言ってるの・・・？

この女（猫）は私を旨く騙してくれました

騙し続けて騙し続けて、

最期の最期まで、騙し続けて逝きました

本当に、
「いい女」悪女でした

いいおんな（後書き）

読んで下さってありがとうございました。

4コマ漫画はこちらです

<http://books.vipdoor.org/comic/ww2948>

<http://books.vipdoor.org/comic/ww2942>

あなたはもういない

> i 1 1 7 7 8 — 3 2 2 <

現在年齢を重ね、忙しいとはいえきちんと休日もあり（取れないときは買い上げてくれる）、893な仕事ではなく、まともな仕事も手に入れ、家や車を買ひ、借金も無い（身内関係は対象が死ぬまで続くでしょうがまあこれは仕方ないでしょう）落ち着いた生活を手に入れたというのに

おまえを迎えられる場所をなんとか作り上げたのに

あの猫はもういないんですね

現在だったら、もっともつと大切に出来たかもしれません。もっとおいしい猫缶でも、高級なクッションでも。彼女専用のお部屋（爪研ぎ放題どうぞ！部屋余ってるし）だって。生活を構築していた親父にビクビクして彼女に暴力沙汰を見せないなんて配慮も必要なく、自由に

っても仕方ないですね。

いつも思ってしまうのは、私が彼女を拾ってこなければ、彼女の人

生はもつと違うものになっていたのではないかということです。子供を生んだり、自由に外を駆け回ったり。それはそれで苦労や辛いこともあったかもしれないですが・・・彼女とは言葉は通じなかったので、彼女自身が何を望んでいたのか。それを稀に夢に出てくる彼女に聞いてみたいと常々思っていますが、まあ世迷言もいい加減にしなさいという感じです自分。

「アンタの猫好き度は異常だ！」

というコメントを頂いたのですが、いいえ違います。私は猫が好きなのではなく（いえ好きなことは好きですが）

あのド美形ド傲慢ワガママ超絶美少女猫だけが好きだったんです
当時あれしかなかったんです。

「好き」が

・・・世迷言も大概にします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5111m/>

むかし共に生きていた猫との思い出を

2010年11月3日01時17分発行